

# 西高殿若葉幼稚園 平成 30 年度 自己評価結果公表シート

## 1. 本園の教育方針・教育目標

### 【教育方針】

人や生きものを慈しむ心、旺盛な好奇心、物事に取り組む意欲、最後まであきらめない粘り強い心。  
集団の中での遊びや保育、またその延長線上にある行事などを通じ、子どもと保育者が日々過ごし、体験してゆく中で、人とのかかわり合いやルールを学びながら、子ども自らが育とうとする力を、感じ合い、喜び合いながら、心身ともに健やかな幼児期を過ごせるよう保育を行う。

### 【教育目標】

- 健康でのびのびと活動する子ども
- 「きれい」「ふしぎ」「四季」を感じ取ることのできる感性豊かな子ども
- 物事に一生けんめい取り組み、あきらめない心を持つ子ども
- 人の気持ちが理解できる、やさしい子ども
- ルールを守り、仲よく遊べる子ども

に育ってゆけるよう、教職員一丸となって保育にあたる。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・職員間で定期的な園内研修を行い、組織全体の質の向上に努める
- ・職員間でのホウ・レン・ソウを徹底し、職員全員で共通理解ができるよう努める
- ・子どもたちが毎日、安心、安全に、子どもらしく過ごせる環境づくりに努める
- ・研修への積極的参加により、高い専門性を身につけ教員の資質向上に努める
- ・子どもの情報を保護者と共有し、家庭との連携を大切にする

## 3. 評価項目の達成及び取り組みの状況

評価項目	取り組みの状況
保育の質・教員としての資質向上	近年、保育の質の向上、より高い専門性が求められている中、外部研修への積極的参加を図った。また、学んできたことを自分のものにするだけでなく、伝達研修を行い、職員間相互において専門知識を共有し、日々の保育にフィードバックすることができた。また、職員が主体となって行う園内研修をすることで、一人ひとりが積極的に学びを深めようとする意識が高まっている。
安心して過ごせる環境づくり	遊具や園内外の点検を日々行い安全を確認している。また、子どもが落ち着いて過ごすことができるよう、保育室内の環境も子どもたちの様子に応じて整えている。また、クラス、学年、担任の先生の枠を超えたコミュニケーションの場として、ピロティなどパブリックスペースも遊びのコーナーを設け、一人ひとりの子どもが人とのかかわりを多くもてるよう工夫している。
遊びの充実	幼稚園で過ごす大半の時間を占める外遊びこそ、子どもの育ちに大きな影響を与えることから、戸外で積極的に遊べるよう、園庭環境を常に整備している。遊びから学びにつながる要素が非常に高い、砂遊びやごっこ遊びなど十分に時間を取り、子どもたちが主体的に何度も試し、十分に遊び込みができるよう、時間的な余裕をもったカリキュラムを立てるよう心がけている。
子育て支援	クラスだよりや、自園のホームページのブログで、保育のようす、子どもの遊びや活動を日々発信し、子どもの成長や子ども理解を深め、子育ての大切さや楽しさを共有している。また、主に保護者を対象とした育児ストレスの軽減、また、子どもの健やかな育ちを援助するために臨床心理士によるカウンセリングを定期的実施している。また、働く保護者、子育て中の保護者の支援として、早朝、放課後、延長のホームクラスを実施し、子育ての支援を担っている。

#### 4. 学校評価の目標・計画の総合的な評価結果

環境、教員の資質向上、あそびの充実、子育て支援ともに、幼稚園という空間における環境が子どもの育ちすべてに影響するところは非常に大きく、「すべては子どものより良い育ちのため」という理念のもと、厳しい状況下においてもより良い環境をめざす意識を持ち続けるべきであることが重要と考える。また、教育は人なりという言葉の通り、園内研修やミーティングを積極的に行うことでコミュニケーション力が高まり、互いが支え合いながら組織力の向上、ひいては教員個々の向上心を高めることができ、豊かな保育を実践することができた。

#### 5. 今後取り組むべき課題と充実すべき課題

##### 【職員間における情報共有の徹底】

定期的に職員ミーティングを行い、一人の子どもの育ちを全職員が把握し、個々の特性に合った援助を行う。また、園内、またはクラスにおける子どもたちの活動で最近盛り上がっていること、話題になっていることなど情報共有を行い、常に職員間のコミュニケーションをオープンにし、より良い保育へとつなげていく。

##### 【保育の質向上】

一人ひとりの子どものすがた、成長をしっかりと捉え、保育者が子どもにとって、或いは、その歳児にとって何が必要なのかなど保育の本質、また、一人ひとりに寄り添いながら幼児理解を深め、きめ細やかでより良い保育をめざす。外部研修への積極的な研修参加で、保育理論、保育スキルを高め専門性の向上をめざす。

##### 【園内研修の充実】

園の教育目標や園の環境、保育活動において大切にしていることについて話し合いを重ね、職員全員で保育のねらいを明確化し、共通理解ができるよう努め、またそれを保育の中で実践したり、報告することで、一人ひとりが向上心をもって取り組む。また、外部研修を受け、そこから得たことなど、伝達研修を通じて知識を高める。

##### 【人材の育成】

教育理念はもとより、それにも増して重要なことは優秀な人材に尽きると考える。新制度施行以来、爆発的な施設の増加による人材難となり、園にとっては危機的状況となっている。これからも幼児教育を目指す者にとって幼稚園が希望に満ちた場となるよう、インターンシップ、教育実習生の積極的な受け入れを行い、そこで子どもの育ちに関わることの喜びや、教育の根幹を支えている大切な仕事であることを伝えていく。

##### 【子育て支援】

安心、安全な環境で「子どもが育つ場」としての幼稚園の機能はますます重要になる。現在、月 1, 2 回の園庭開放と平日に少人数制の園庭開放を行っているが、地域の子どもと保護者が安心、安全で快適に過ごせる空間、また、子育ての楽しさを共有できる場としての幼稚園を提供し続けるべきであるとする。

#### 6. 学校関係者の評価

平成 30 年度は、大阪北部地震、台風 21 号など自然災害に見舞われる厄災の一年となりました。園においても一部被災されましたが、いずれも素早い復旧をされ、保育には何の支障もなく、子どもたちが安心して過ごせる良い環境を提供されておられました。引き続き次年度も、若葉幼稚園らしい一人ひとりに向き合った丁寧な保育、そして、子どもたちにとってかけがえのない大切な場所であり続けることを望みます。

#### 7. 財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。